

カイロ大学における日本語教育の問題と解決¹⁾

— より良いコースデザイン作りをめざして —

Maher ELSHERBENY

はじめに

エジプトカイロ大学文学部日本語日本文学科（以下「学科」と略す）は設立されてから22年経ち、多くの人材を出す成果をあげているが、さらに、内容を充実させるには解決しなければならない多くの課題を抱えている。本稿では、より良いコースデザインを行うために必要な問題分析と解決について主なポイントにしばって記述する。

1 学科の概要

ここでは、学科の沿革、カリキュラム、授業の実際、評価法、学科の成果を簡単に取り上げる。

1.1 学科の沿革

学科は1974年度に設立された。設立年に日本の国際交流基金(以下「基金」と略す)から教師が1名派遣され、日本語日本文学科の教育が始まった。1976年度に基金の派遣教師が2名になり、1978年には4名になった。1986年度までは学科の教師は全て日本人であったが、日本に留学していた学科の卒業生達が1987年から帰国し始めた。1996年度現在、学科の日本人教師は2名、エジプト人教師は6名である。また、1994年に大学院ができ、日本人客員教授1名が基金から派遣されている。エジプトの場合、大学院は大きく予備課程²⁾、修士課程、博士課程の三つに分けられる。

設立時の学科の学生数は1年に35名ぐらいであったが、段々、減らされて、現在、20名である。女子学生は平均的には17名で、男子学生は3名であり、圧倒的に女性が多い。1996年の予備課程の学生は8名（男子学生4名、女子学生4名）である。修士課程の学生は1名、博士課程の学生は2名いる。また、毎年、拓殖大学、大阪外国語大学の短期研修（3年修了者、2ヵ月以内）、日本語・日本文化研修留学（3年生が1年間）、東京都立大学大学院留学生(毎年1名)、日本の文部省の留学などのために、10名ほど日本に派遣される。

学科入学条件は次の3つである。

- ①高校で英語を第1外国語として学習していること。
- ②高校卒業試験でアラビア語と英語の得点が80%以上であること。

③学科の面接試験に合格すること。

予備課程に入学するためには、大学卒業試験での得点が70%以上であり、学科の面接試験に合格しなければならない。

修士課程に入る場合は予備課程出席率が65%以上、予備課程修了試験の前までに、各科目で小論文を提出し、予備課程修了試験での得点が70%以上、英語とアラビア語の試験を受け、合格し、修士論文のアウトラインが教授会で認められることが条件である。

また、博士課程に入学する場合、修士論文の提出及び博士論文のアウトラインが教授会で認められることが条件である。

1.2 カリキュラム

学科のカリキュラムは「古カリキュラム」と「新ムカリキュラム」の2つに分けられる(表1,2参照)。1974年度から1992年度まで、古カリキュラムが実行されていたが、文部大臣の承認で1993年度に新カリキュラムが実行されはじめた。新カリキュラムは1993年度に1年次学生に、1994年度に2年次学生までに、1995年度に3年次学生までに、1996年度に全学生に適用された。古カリキュラムの平常点科目³⁾と中間試験は新カリキュラムでは廃止された。また、古カリキュラムでは通年制が採用されていたが、新カリキュラムでは前期・後期の2学期制が採用された。さらに、古カリキュラムでは科目名と内容の不一致の問題があったが、新カリキュラムではその問題が以前より拡大した⁴⁾。通年カリキュラムの修正が認められず各科目が前期・後期に振り分けられたからである⁵⁾。

1.3 授業の実際

科目は「主専攻科目」、「副専攻科目」⁶⁾に分けられる(表3,4参照)。また、「主専攻科目」はさらに、「日本語科目」と「日本文学科目」に分けられる(表5,6参照)。1年から2年前期までの1年半は『日本語初歩』(以下『初歩』と略す)を使用している⁷⁾。1年の場合、日本語科目は「日本語作文」、「日本語文法」、「日本語会話」、「日本語購読」、「中国音節研究(漢字)」であるが、実際には教師達は『初歩』を共通教材として使って、総合的に日本語を教えている⁸⁾。2年生前期で『初歩』の勉強が終わると、それぞれの教師は自分で教材と教え方を決める。2年後期以降は各科目によって違った教科書を使って授業をする。また、1つの科目を1名の教師が担当するのが原則であるが、時間数の多い科目は2名の教師が担当する。たとえば、4年の「作文と会話」である⁹⁾。

1.4 評価法

1年と2年では、小テストを行う。週に何回行うかは担当教師によって違うが、1995年度の1年の前期は週3回であった。しかし、2年後期以降、小テストは殆ど行わない。期末試験は各科目ごとに行われる(1科目3時間)。聴解テストは1学期に1回だけ行えるが、聴解テストは筆記試験の一部になる¹⁰⁾。

また、進級する場合、1,2,3年では、前期と後期の科目の試験に合格すれば、進学ができる。3科目以上の試験に不合格の場合、落第することになり、翌年度にその3科目の試験

を受けて、1科目以上に合格した場合、進学できる。4年では、3科目以上の試験に不合格の場合、夏休みに追試をする。また、不合格だったら、翌年度、やり直す¹¹⁾。

学部の試験の得点は90%以上はA、80%以上から90%未満までB、65%から80%未満までC、50%以上から65%未満までDと評価されて合格するが、35%未満はE、35%以上から50%未満までFと評価されて不合格となる。予備過程に進学する場合、前述したように大学の卒業成績が70%以上である事が条件の一つである。

1.5 学科の成果

以下の(2)に現在の問題点を取り上げるが、その前に、学科のこれまであげてきた成果を簡単に述べる。

学科は他の学科に比べれば、とても高い成果をあげ、エジプトの代表的学科になっている。

学生については、全国の文学部の中で、一番優秀な学生が集まっている。学生の数については他には、300名のところもあるが、学科の場合、20名が定員である。他には、希望者全員を入れるところもあるが、学科は厳しい入試があるので、優秀な学生しか入れない。

卒業生は他の学科の卒業生に比べれば、仕事を見つけやすい。卒業するとすぐ仕事を見つける者が多い。学生の時でも仕事ができる者も少なくない。就職先での給料も良い。そのために、学科に入りたがる人も多いわけである。就職先は観光業（観光ガイド、旅行社、外国人観光用一流ホテル、外国人観光用土産物など）、日本企業、通訳、翻訳、マスコミなどである。他の語学学科、たとえば、英語学科の卒業生はなかなか仕事を見つけられない。（特にインフレがあるエジプトでは、大学を卒業してすぐ仕事を見つけることは難しい）。

教師については、助手（学士のみ取得している教師）も教えているところもあるが、学科の場合、教えているのは修士号と博士号を取得している者のみである。学科の教師は皆、日本に何年間も留学していた。3名は日本の大学で修士号を取得し、4名は博士号を取得している。4名も博士号を取得している教師がいる日本学科はカイロ大学の日本語学科のみである（『朝日新聞』「ルポ カイロ大学日本語学科1994,10」）。教師達は長期間、日本に留学しているので、日本の事をよく知っている。また、学歴も高く、言うまでもなく、教える力がある。

その他、基金と日本の民間企業は今まで、学科を支えてきた。基金は優秀な教師を派遣し、教材を寄付する。派遣された教師の中には、現在、大学長をしている方もいる。最近も、大学院のために毎年、1名の教授が派遣される。派遣された教師は皆、真面目に教えている。学科の日本人・エジプト人スタッフは真面目で勤勉な事で高い評価を受けている。

設備については、学科は設備の整っているLLが二つあるが、他にはLLがない（または素朴なLLがあるところもある）。昨年、文部大臣は学科のLLを視察に来た。

大学に関する法律によれば、学科長になるのは教授でなければならないが、学科のエジ

プト人教師の一番高い職位があるのは助教授である。そのために2年前まで学科長をしていたのは文学部長であった。文学部長が学科長をしていた間、学科は大きく発展した。

以上からわかるようにエジプト側（たとえば、カイロ大学）と日本側（たとえば、基金）両方が学科を重視しているので、学科はエジプトの代表的学科になったのである。

2 現在の問題点

ここでは到着目標の不明確さ、授業の問題点、学生のモチベーション、評価の仕方について述べる¹²⁾。

2.1 到着目標の不明確さ

カイロ大学文学部に設立された学科は具体的にどんな目的を果たすためにできた学科であるかという問題がある。知識や4技能（話す、聞く、読む、書く）はどこまで教えるかということも充分明確ではない。日本そのものについてどこまで知ってもらうか、4技能のどれに焦点を当てるか、どこまで伸ばすかはあまり明確ではない。現在、学科の教師はできる限り、知識や4技能を伸ばすように教えているが、どこまで伸ばしたらいいかという学科最終到着目標が具体的に設定されていない。

2.2 授業の問題点

授業にも色々な問題があるが、主な問題点は3つである。

第1の問題点は教師が担当する科目の学期ごとの授業計画書を作らないことである。つまり、担当する科目の目標が充分明確化されていない。勿論、何を教えるか、どの教材を使うか、どこまで教えられるかは考えるが、授業計画書の形にしていない。ただ頭の中だけで考えている。

第2に授業の横の関係があまりない。つまり、教師のそれぞれが担当の科目の授業計画書を作らないので、特に2年の後期、3年、4年の各学年の目標が充分明確化されていない。

第3に授業の縦の関係があまりない。つまり、2年の各科目と3年の各科目の関係、3年の各科目と4年の各科目の関係があまり明確ではない。要するに、各学年の目標があまり明確ではないので、最終到達目標が決められないと考えてもよい。科目名、時間、内容などを変える場合、学科は文部省に変更願いを出すか、文部省が変えるように指示するかという二つの方法があるが、学科が文部省に変更願いを出す場合、認められたり、返事を受けるまで、時間がかかる。

その上、新カリキュラムが最近、実行されたので、カリキュラムは、当分変わる見込みがない¹³⁾。従って、今、変えられるのは、科目などの大枠ではなく、枠内の具体的内容ともいえる最終到達目標、シラバス、教材、教授法などについてである。

さらに、教科書の問題もある。『初歩』には次のような問題がある。

- ①日本に滞在する外国人のために書かれた教科書である。
- ②エジプトの学習者の母語と文化に基づいて作成されたものではない。
- ③教師用（特に外国人教師用）マニュアルがない。

従って、今後、学科の目標に合った教科書を作ることが必要となる。

2.3 学生のモチベーション

入学動機は色々である¹⁴⁾。学生は学科に入る前（または1年と2年の時）、何を身につけるかという事を考えるが、3年と4年の時、卒業すれば、どのように日本語を活かせるかという事を考える。現在、学科で教えている事と卒業した後の事の間はあまり深い関係がない。つまり、教師達は学生が卒業した後、どこで日本語を活かせるかという事をあまり考慮していない。そのために、不満を持っている学生もいる。学生はなぜ教師達にそれを習うのかという事を理解することが難しい。教師は学生のモチベーションをあまり具体的に考えないでシラバスを作っている。

2.4 評価の仕方

新カリキュラムでは小テストが試験の一部にならないので、小テストのために準備をしなくてもいいと思う学生がいる。また、レポートも評価の対象にならないので、書かなくてもいいと思う学生がいる。授業態度、授業活動なども評価の対象にならないので、授業態度に気を付けず、授業活動に積極的に参加しない学生もいる。卒業論文も古カリキュラムでも新カリキュラムでも書く必要がない。現在の評価法は期末試験の点だけによる。出席率が65%以上であれば、学生は試験を受ける権利がある。このように期末試験が学生にとって唯一の評価である事も問題点である。

3 解決策

以上、学科の主な問題点を挙げたが、以下で、これらの問題点について、現在、解決が可能なものについて、いくつかの解決策を提案してみる。

3.1 到達目標の明確化

まず、学科の教師全員で具体的にどんな目的を果たすためにできた学科であるかという事を協議し、もっと明確にするべきである。また、4技能のどれに焦点を当てるか、どこまで伸ばすか、日本についてどこまで知ってもらうか、という事をもっと明確にするべきである。つまり、4技能や知識の最終到達目標をもっと具体的に設定するべきである。その際、4技能のうち学びやすい順はエジプト人学習者の場合、話、聞、読、書の順であることを確認する必要がある^{15), 16)}。また、文学関係の専門科目に関しても到達目標を設定しなければならない。

3.2 目標言語の調査とシラバスの整備

最終到達目標を充分明確にすると同時に、その目標を達成するために、各学年で教える内容を決めるべきである。たとえば、目標言語の調査を行い、学科の学生と卒業生を対象にして実際に、どこで、だれと、どのような目的で、どのような日本語を使用するかという事を調べる必要がある。筆者の経験から考えると、

- ①エジプト人が日本語を使用する所は観光地、レストラン、民芸品店などである。
- ②学科の学生と卒業生の日本語使用の対象者は短期滞在の場合、日本人旅行者（中年、大

学生)、長期間の滞在の場合、日本企業の日本人(中年)と企業の日本人の夫人である。学科の学生と卒業生は仕事(あるいはアルバイト)として日本語を使っている者もいるし、仕事と関係なく、日本語・日本の知識を伸ばす事を目的にしている者いる。一方、日本人は、観光地や買い物への案内をしてもらう目的がある者もいるし、エジプトの事を知る事を目的としている者もいる。

③話題については日本人はエジプト人にエジプトについての基礎知識(観光地、古代エジプトの歴史¹⁸⁾、イスラム教¹⁹⁾、社会²⁰⁾、政治²¹⁾、言語²²⁾、産業、貿易、農業、輸入、輸出、教育)についてよく聞く。一方、エジプト人は日本人に現代日本の生活、日本人の考え方についてよく聞く。以上のようなトピックを念頭に入れて各科目のシラバスを考える必要がある。

3.3 学生のモチベーションをもっと考えること

教師達は学生・卒業生がどこで日本語を活かせるかという事を具体的に考えるべきである。具体的に考えてみると、モチベーションを大まかに「日本語・日本文化をもっと知するために日本人の友達を作ること」、「日本語を使って仕事をする」、「日本に留学すること」の3つにまとめられる。学生のモチベーションを充分考えた上で、新シラバスを作成すべきである。学科が学生のモチベーションを考えるととき3.2で述べた事が参考になるであろう。

3.4 授業の縦・横の関係をとること

教師は担当する科目の目標をもっと明確にするために学期ごとの授業計画書を作り、授業の縦・横の関係をとるべきである。更に実際に教師達は新学期の前に、時間と担当を決めて、それぞれの教師は授業計画書をつくり、それに縦・横の関係を考えて、授業計画書を修正する。

おわりに

以上で述べたように、学科のコースデザインに関する問題は様々であるが、教師達が力を合わせれば、すぐ解決できる問題と解決できるまで時間がかかる問題がある。

すぐ解決できる問題は

- ①到達目標の明確化
- ②目標言語の調査
- ③シラバスの整備
- ④学生のモチベーションを充分考えること
- ⑤授業の縦横の関係をとること である。

一方、解決できるまで時間がかかる問題は

- ①コースデザインの整備(話題シラバス、4技能シラバス、各科目シラバス)を作成すること
- ②シラバスに合わせた教材を作成すること

③教師の教授法への理解を高めるために学科の研究会でもっと教授法について研究したり、教師が日本語教育研修を受けるようにすること²³⁾

④科目名と授業の内容の不一致を解消することである²⁴⁾。

本稿を終えるにあたり、温かい御指導を頂いた国際交流センターの百瀬侑子先生に厚く御礼申し上げます。

注

- 1) 本稿は（1997）国際交流基金日本語国際センターに提出した課題研究『カイロ大学文学部日本語日本文学科のコースデザインの問題解決—よりよいコースデザイン作りをめざし—』を加筆訂正したものである。
- 2) 日本の研究生の制度にほぼあたるものである。
- 3) 平常点は教師によって選択された任意の2科目の平均点を1科目分として設定される。
- 4) 虎尾憲史
- 5) 虎尾憲史
- 6) 副専攻科目は一般に教養科目という。
- 7) 本体だけではなくて、副教材とテープを使っていた。
- 8) たとえば、1995年度前期、マーヒル、副島、秦の3人が担当していた。授業が終わって、教師が教えた事、注意する事などを連絡ノートに書く。次の教師は連絡ノートを見て、次の事を教える。週1回、担当の教師達は連絡会を開いて進み方、問題点などについて話し合う。授業の流れは課の新出単語、新出文形、新出漢字、本文の読解、本文の練習、口頭練習、会話の順番である。
- 9) たとえば、1995年4年前期の「日本語 作文と会話」をマーヒルと秦が担当していたが、マーヒルは会話と秦は作文で『Integrated Spoken Japanese II』を使用した。マーヒルはその教科書の会話表現と会話文を教えてから、学生に会話文を作らせる。秦は同教科書の書き言葉と書き言葉の表現を教えてから、作文を書かせる。
- 10) つまり、ある科目で聴解テストをする場合、その科目の試験を「筆記試験」「聴解テスト」の2つに分ける。その2つの得点を合わせて、その科目の試験の成績にする。
- 11) 1995年度前期期末試験は1995年12月28日に始まって1996年1月14日に終わった。後期末試験は1996年5月25日に始まって1996年6月8日に終わった。
- 12) 1.5で述べたように学科は大きな成果をあげている。にもかかわらず学科の問題をとりあげる目的は批判ではなく、他の国の日本語学科よりもっと良い学科を作ることである。特に、学科はアラブ諸国で日本語学科を設立するために大きな役割を果たしはじめたし、スタッフの全力がまだ出ていないという事もあるし、最近、大学院ができたという事もあるからである。

大統領も数年前、教育を国家の大きい目的にすると宣言した。いわば、教材をより

深刻に考えるという事である。そのために文部大臣が教育革命を行なっている。上で述べた新カリキュラムも教育革命の一部であった。本稿では、大統領、文部大臣の考えを元にして、教育改革を目指し学科の主な問題点を取りあげることにした。

13) 虎尾憲史(1996)

14) 副島1996年(21.p)によれば、日本への憧れ16.4%、日本文化への興味16.4%、新しい言葉へのチャレンジ精神15.1%、職業・キャリア志向12.3%、日本人や日本の価値観に好感を持っている8.2%、家族、知人が学科を勧めた5.5%、国際親善2.7%、日本語や日本文化の教師になりたい2.7%、学科の評価を聞いて1.4%、日本宗教への関心1.4%、その他1.4%

15) 「話すこと」、「聞くこと」を比べてみると、エジプトを含むアラブ人の場合、「聞くこと」より「話すこと」のほうが得意である。

16) 学習者の日本語の問題点については参考文献（著者の論文）にとりあげられている。

17) カイロ、ルクソール、アスワン、アレキサンドリアなど。

18) 特に、カイロ、ルクソール、アスワン、アレキサンドリア、シナイ半島の歴史。

19) 特に、「六信」（①アッラー②予言者達③諸聖典④天使⑤天命⑥審判の日）「五行」（①信仰②告白③礼拝④断食⑤巡礼）その他、女性の地位、タブーなど。

20) 特に、エジプト人の国民性、考えかた、習慣、慣習、家族、物価、天気、人物（たとえば、ラムセス二世、ツタンカーメン、ハトシェプスト、ムハンマド・アリ、文学の有名人物ターハ・フセイン、ナジーブ・マフフーズ、政治の有名人物ナセル大統領、サダト大統領、ムバラク大統領）など。

21) 特に、エジプトとアラブの関係、1973の戦争、平和条約、パレスチナ問題、湾岸戦争など。

22) アラビア語、エジプト語。

23) エジプト人スタッフが日本語教育研修を受けていない事は最大の問題である。筆者はカイロ大学で教育研修を受けたが、充分ではなかった。エジプト人スタッフが日本語教育研修を受けたら、実力を出せるようになると考えている。

24) 虎尾憲史(1996)

参考文献

- 赤羽三千江・その他(1992)『外国人教師のための日本語教授法』国際交流基金日本語国際センター
- カイロ大学(1995)“CALENDER CAIRO UNIVERSITY”カイロ大学出版
- 鹿島正裕(1985)『カイロ大学より』三修社
- 副島健治(1996)「カイロ大学文学部日本語・日本文学科沿革と現状」
『日本 ことばと文化』1号 CAIRO UNIVERSITY FACUTY OF ARTS
DEPARTMENT OF JAPANESE LANGUAGE AND LITERATURE
- 高見沢孟(1996)『はじめの日本語教育2』アスク講談社
- 田中望(1988)『日本語教育の方法—コースデザインの実際』大修館
- 竹井幸典(1986)「エジプト・カイロで日本語を教えて」『外国で日本語を教える』
創拓社
- 虎尾憲史(1996)「任期中のカリキュラムの変遷」『日本 ことばと文化』1号
CAIRO UNIVERSITY FACUTY OF ARTS DEPARTMENT OF JAPANESE
LANGUAGE AND LITERATURE
- 中村重穂・その他(1994)「エジプトにおける日本語教育」『日本教育研究』27号
言語文化研究所
- 埴治夫(1994)「私からひとこと—カイロ大学日本語科のこと—」『アラブ7』1号
日本アラブ協会
- Maher ELSHERBENY (1996)「アラビア語と対比した日本語の特質」
『日本 ことばと文化』1号 CAIRO UNIVERSITY FACUTY OF ARTS
DEPARTMENT OF JAPANESE LANGUAGE AND LITERATURE
(1997年)「日本語とアラビア語の対照—待遇表現—」『日本 ことばと文化』2号
CAIRO UNIVERSITY FACUTY OF ARTS DEPARTMENT OF JAPANESE
LANGUAGE AND LITERATURE
- 百瀬侑子(1996)「海外における若手Non -native教師養成のための日本語Team
Teaching」『日本語国際センター紀要』第6号 日本国際交流基金日本語国際
センター

(表1) 1992年度の主専攻科目名と時間割

主 専 攻 科 目	科 目 名	学 年				合 計
		1年	2年	3年	4年	
日 本 語 学 科 目	日本語学応用	—	2	—	—	2
	日本語（文法）	4	—	—	—	4
	日本語（会話）	4	—	—	—	4
	日本語（購読）	4	4	—	—	8
	漢字	—	—	2	2	4
	漢字（中国音節研究）	—	2	—	—	2
	新聞と論文の購読	—	—	—	2	2
	日本語（文法と作文）	—	6	—	—	6
	日本語（文法と作文と会話）	—	—	4	—	4
	日本語購読（戦後文学）	—	—	4	4	8
	言語学（日本語史）	—	—	—	2	2
	日本語購読（戦前文学）	—	—	—	4	4
	日本語（作文と会話）	—	—	—	2	2
文 学 科 目	日本文明入門	2	—	—	—	2
	日本文明	—	2	—	—	2
	日本文学入門（文学史）	—	2	—	—	2
	日本文学史	—	—	2	2	4

注：単位はアラビア数字で示され、時間を表す。—はその科目はその学期で教えられないということを表す。特別科目（3年と4年の優秀な学生のみ実行される科目）、予備課程科目は上記の表に出ていない。

(表2) 1996年度の主要専攻科目名と時間

主 専 攻 科 目	科 目 名	学 年								合 計
		1 年		2 年		3 年		4 年		
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
日 本 語 科 目	表現と文形	8	-	-	4	-	-	-	-	12
	日本語の文法	8	-	4	4	4	-	-	-	20
	日本語の会話	-	6	4	-	4	-	-	-	14
	日本語の会話 演習	-	2	4	-	-	-	-	-	6
	日本語の購読	-	6	-	8	-	8	2	-	24
	日本語の購読 演習	-	2	-	-	-	-	-	-	2
	漢字（音節研究）	-	4	-	-	-	-	-	-	4
	漢字	-	-	8	-	4	-	-	-	12
	日本語 作文と会話	-	-	-	-	-	-	-	8	8
	日本語からアラビア語への翻訳	-	-	-	-	8	-	-	4	12
	日本語からアラビア語への翻訳 演習	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	日本の新聞と論文の購読	-	-	-	-	-	-	4	-	4
	日本語研究	-	-	-	-	-	-	-	4	4
作文と理解	-	-	-	-	4	-	-	-	4	
日本購読	-	-	-	-	-	-	2	-	2	
文 学 科 目	日本の文明	4	-	-	-	-	-	-	-	4
	日本研究	-	-	-	4	-	4	-	-	8
	日本文学史	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	近代日本思想	-	-	-	-	-	4	-	-	4
	日本文学史・思想史	-	-	-	-	-	4	-	2	6

(表3) 1996年度の副専攻科目名と時間数

科目名	1年		2年		3年		4年		合計
	前	後	前	後	前	後	前	後	
英語	4	—	—	4	4	4	—	4	20
アラビア語	—	4	4	—	—	—	—	—	8
極東の歴史	4	—	—	—	—	—	—	—	4
アラビア語（近代詩）	—	—	—	—	—	—	4	—	4
極東の地理	—	4	—	—	—	—	—	—	4
近代アラブ思想	—	—	—	2	—	—	—	—	2

(表4) 1996年度の時間数

学年	前期			後期		
	語科	文科	副科	語科	文科	副科
1年	16	4	8	20	—	8
2年	20	—	4	16	4	6
3年	24	—	4	8	12	4
4年	14	2	4	16	6	4
合計	74	6	20	50	22	22

注：語科（日本語科目）、文科（文学科目）、副科（副専攻科目）

(表5)

1996年度の予備課程前期科目名と時間数

主専攻科目	科目名	時間
日本語科目	国語学	2
	言語学	2
日本文学科目	方法論	2
	文学史	2
	文化論	2
	論文作成指導	2

(表6)

1996年度の予備課程後期科目名と時間数

主専攻科目	科目名	時間
日本語科目	国語学・言語学	2
	論文指導	2
日本文学科目	方法論	2
	文学史	2
	文化論	2
	思想歴史	2